

令和5年度秋田栄養短期大学データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検・評価

I. 学内からの視点

1. プログラムの履修・修得状況

学生のデータサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、データサイエンス・AIを適切に理解し、それらを活用する基礎的な能力を育成することを目的として、「データサイエンス・AI教育プログラム」を令和5年度後期より開設した。

データサイエンス・AI教育プログラムでは、「情報処理演習B」（1単位）及び、「栄養情報処理演習」（1単位）の単位を修得（合計2単位）した学生に、「修了証」を発行することとしている。

後期ガイダンスにて全学生にチラシを配布し、説明会を実施した他、本学ポータルサイトを通じて全学的な周知を図った。令和5年度の実績については、履修者数12名のうち、11名がデータサイエンス・AI教育プログラムを修了した。結果として、修得率は9割であった。

2. 学修成果

データサイエンス・AI教育プログラムを修了した学生に、学修成果の一つとして、「修了証」を発行する予定である。学生の今後の科目履修や就職活動等に活用してもらうことを見込んでいる。

また、本学では、学生に「学修目標への到達度セルフチェック」を実施している。これにより、教育内容や教育方法の改善、学生のこれからの伸びを期待した改善方策等に生かすこととしている。

3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

令和5年度の授業評価アンケートでは、「この授業は、わかりやすかったですか」という設問に対して、次のような結果となった。

- ・「情報処理演習B」 5点（90%）、4点（10%）
 - ・「栄養情報処理演習」 5点（73%）、4点（18%）、0点（9%）
- ※5点満点評価

理解度については、ほとんどの学生から5点または、4点評価の回答を得ているが、一方

で0点評価の回答も見受けられる。

今後より一層、学生には分かりやすく、かつ、興味・関心の高まる授業として、科目担当者やFD委員会と連携して、授業の評価、改善に向けた取り組みをしていきたい。

4. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

現時点では実施していないが、令和5年度に実施した授業評価アンケートの結果では、約8割の学生が、「授業の内容は興味を持てるものだったか」、「この授業に対する満足度」、「技術や実技などが身に付いたか」という設問に対して、「5点」または「4点」評価で回答していた。（授業評価アンケートは5点満点により実施）

今後、履修モデルやカリキュラムマップ、カリキュラムツリー等を活用し、推奨度を示していけるよう検討していきたいと考えている。

5. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

令和5年度よりデータサイエンス・AI教育プログラムを設置し、ガイダンスやポータルサイトでの全学的な周知により、設置初年度は前述の結果となった。

令和6年度には、新入生に配布している「学生要覧」やホームページへの掲載、令和5年度のデータサイエンス・AI教育プログラム修了者への「修了証」の発行等を行う予定である。今後の実績も踏まえ、データサイエンス・AI教育プログラム推進会議等で検討しながら、履修者数・履修率向上に向け取り組んでいきたい。

II. 学外からの視点

1. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

データサイエンス・AI教育プログラムを修了した卒業生を現時点で輩出していない。令和6年度以降の卒業予定者より、データサイエンス・AI教育プログラムを修了した学生が該当するため、本学で就職支援等の担当部署となっている「キャリアセンター」と連携し、卒業生や就職先の企業へのアンケート等を通じて、現状把握に努めていくとともに、今後のデータサイエンス・AI教育プログラム改善に向けて検討していきたい。

2. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

データサイエンス・AI教育プログラムを修了した卒業生を現時点で輩出していないため、今後、データサイエンス・AI教育プログラムを終了した令和6年度以降に、上記と同様、「キャリアセンター」と連携し、就職先の企業へのアンケート等を通じて、情報収集に努めていくとともに、今後のデータサイエンス・AI教育プログラム改善に向けて検討していきたい。

Ⅲ. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

データサイエンス・AI教育プログラム関係科目を基礎として、より実践的な各種実習科目への履修と繋げるため、カリキュラムツリー等を活用し、体系的に示している。

今後も適宜ガイダンス等で実践例を紹介しながら、学ぶ楽しさや意義等について情報発信をしていきたいと考えている。

Ⅳ. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

授業評価アンケートの結果を参考にしながら、FD委員会で検証した内容をデータサイエンス・AI教育プログラム推進会議とで共有していきたい。、ICT機器を活用し、より「分かりやすい」授業とするために改善に向けた方策を検討していきたい。

日々発展し、変化していく生成AI技術や社会情勢に対応するため、シラバスやカリキュラムマップにて示している「到達目標」等についても適宜見直しも図りながら、全学的に取り組んでいきたい。